

# インフラ整備からまちづくりへ。担当者が描くまちの理想図！

## 【取組の概要】

郊外の拠点と中心市街地を公共交通で結ぶ交通結節機能の強化と、その目的地となる中央通りのウォークブルな空間再整備を軸に、まちの賑わいづくりに取り組んでいます。事業者候補の掘り起こしや機運醸成を目的に社会実験を重ねており、現在は国のバスタ整備とも連動しながら、公共空間に続々とまちづくりのフィールドが誕生しています。まち育てに関わる関係人口を増やし、地域経営を担うエリマネ団体の組成を通じて、居住者や商店街とともに新たな価値を共創する、持続可能な連帯の確立を目指しています。



## 【担当者インタビュー】

四日市市 市街地整備課 伊藤 直人さん



整備中の中央通りの様子



賑わい創出社会実験の様子



賑わい創出社会実験のポスター

### Q. この取組におけるあなたの役割・担当は？

中央通りの再編事業において、ハード整備の統括、新たに生み出される空間の活用や管理・運営の企画を担当しています。基本構想のとりまとめ段階から関わっており、現在8年目になります。

### Q. あなたにとってウォークブルに取り組む中で「背中を押していること」や「やりがいになっていること」はなんですか？

当初は不安もありましたが、事業化以降は前だけを向いて進んできました。先行して完成した駅前の円形デッキに多くの市民が訪れ、思い思いに景観を楽しむ姿を目の当たりにすると、この事業に携わって本当によかったと実感します。

### Q. 良質な空間形成の実現のために、こだわっている・工夫している点を教えてください。

中央通りのデザインガイドラインを策定し、公共空間だけでなく沿道の民有地も含めたエリア全体の価値向上を目指しています。関係者や専門家を含めた調整会議を立ち上げて、ガイドライン以外にも、多角的な視点で事業の内容について議論・検討を進めています。さまざまな意見が出るので、その思いを丁寧に聞き取って反映させる等、調整を大切にしています。

### Q. 社会実験の結果を、実際のプロジェクトにどのように活用・反映していますか。

ハード整備がゴールではなく、いかに活用し、まちづくりに繋げるかを最優先にしています。実験で得られた人流データをダッシュボード化し、出店検討や空間活用に役立てる仕組みの構想や、実験を通じて繋がったプレイヤーたちとのネットワーク拡大、行政の手を離れて民間主体で活用・運営できる「まちづくり組織」の体制構築など、実現に向けて奔走しています。